単 元 名	Unit 10　　夏の冬休み	配当時間	４～７時間
単元の目標	(1) 自分ができることについて表現したり，友達ができることについて質問したりしようとする。 (2) 助動詞can を用いて身近なことを表現したり，疑問詞Whenを用いて時期について尋ねることができる。 (3) オーストラリアからの近況報告やMarkとDemiの会話の内容を理解することができる。 (4) ｏ助動詞canや疑問詞whenの用法を理解することができる。 ｏオーストラリアの気候やブルーマウンテン，南十字星について理解することができる。		

☆本単元では，中心的言語材料である助動詞can を運用できるようにさせるとともに，オーストラリアの観光地や南十字星に関する会話を通してオーストラリアという国に対する興味・関心をさらに高めさせたい。

①★**Part 1** 助動詞can の肯定文の形・意味・用法を知り，練習する。 ②★**Part 2(1)**　助動詞canを用いた疑問文とその応答について知り，問答する。 友達はどんなことができるのか質問し，わかったことを発表してみよう。 評助動詞can を用いて身近なことについて発表したり，問答したりすることができる。（発表，観察） ③　**Part 2(2)** 助動詞can を用いたコミュニケーション活動に取り組む。 ④★**Part 3** Whenを用いた疑問文について知り，練習する。 ⑤★**まとめ４** いろいろな疑問詞の意味・用法を再確認し，それを用いて問答する。 ⑥　**単元のまとめ** 学習事項をまとめ，単元テストに取り組む。 ⑦　**Speaking Test**　日本の観光地についてＡＬＴの面接テストを受ける。	①・口頭導入 ・口頭練習のモデル ・T or FやQ & A ②・対話による口頭導入 ・生徒との対話形式の口頭練習 ・T or FやQ & A ③・コミュニケーション活動のデモンストレーション ・コミュニケーション活動における生徒の相手役 ④・対話による口頭導入 ・生徒との対話形式の口頭練習 ・T or FやQ & A ⑤・疑問詞を用いての生徒への質問 ・問答の相手 ⑦・インタビュアー

ｏ①，②で助動詞can の導入と練習，コミュニケーション活動に取り組ませ，その後教科書に入っていくという指導過程も考えられる。
ｏ⑤では，教科書の練習問題に加えて，友達に質問して空欄を埋めるようなワークシートを用意してコミュニケーション活動にも取り組ませたい。
ｏSpeaking Testにおいては全員に課題を与えておき，テストを受ける数人のグループだけをＡＬＴのいる別室に行かせる。

東京書籍　　http://www.tokyo-shoseki.co.jp/
オーストラリア大使館　　http://www.australia.or.jp/